

August 26, 2019

【前日の為替概況】ドル円、中国の報復関税とパウエルFRB議長の追加利下げ示唆で105.26円

23日のニューヨーク外国為替市場でドル円は続落。終値は105.39円と前営業日NY終値(106.44円)と比べて1円5銭程度のドル安水準。中国政府は、米国による制裁関税「第4弾」への報復として、米国からの輸入品約750億ドル相当に対し、9月1日から5-10%の追加関税を課すと発表した。

パウエルFRB議長がジャクソンホール会議での講演で「経済は望ましい状況だが、リスクが迫っている」「景気拡大を維持するために、適切に行動する」と発言、追加利下げ観測が高まりドル売りを誘った。

トランプ米大統領が中国の対米報復関税に反発し、直ちに対抗措置を取る考えを表明すると、米中貿易戦争が激しくなるとの見方からダウ平均が一時740ドル超下落。ナイト・セッションの日経平均先物も590円下げたため、投資家がリスク・オフの動きを強め円買い・ドル売りが加速した。米10年債利回りが一時1.5047%前後まで急低下したことも相場の重しとなり、105.26円まで下落した。

トランプ大統領は「偉大な米企業に対し、中国の代替先を即時に模索するよう命じる。事業を米国に戻し、米国内で生産することも含まれる。われわれに中国は必要ない。率直に言えば、中国がいない方が状況はましだろう」とし、米企業に対し中国から事業を撤退させ、米国内での生産を拡大するよう要求した。

ユーロドルは3営業日ぶりに反発。終値は1.1144ドルと前営業日NY終値(1.1080ドル)と比べて0.0064ドル程度のユーロ高水準。中国が対米報復関税を発表したことで全般ドル売りが先行したうえ、パウエルFRB議長が追加緩和に含みを持たせたことがドルの重しに。トランプ氏の「中国の新たな関税に対応する」とのツイートで米国株安と米金利低下が進むとユーロ買い・ドル売りが活発化し、1.1153ドルまで上昇。

ユーロ円は続落。終値は117.49円と前営業日NY終値(117.94円)と比べて45銭程度のユーロ安水準。米中対立の激化懸念が一段と強まり、米国株や日経平均先物が軟調に推移すると、投資家がリスク回避姿勢を強め円買い・ユーロ売りが加速し117.26円まで下落した。

【本日の東京為替見通し】ドル円、米中貿易・通貨安戦争と地政学リスクで続落か

本日の東京市場のドル円は、米中貿易・通貨安戦争の激化や極東の地政学リスクへの警戒感から、続落する展開が予想される。

ドル円のテクニカル分析では、112.40円の高値から「窓」(ブレイクアウェイ・ギャップ breakaway gap: 111.07円・110.96円)を空けて下落トレンドが始まり、今回の窓空け(23日安値105.26円・26日高値105.17円)が下落トレンドを加速させるランナウェイ・ギャップ(runaway gap)と見なせる。上値の目処(めど)は、105.78円(一目均衡表・転換線)、下値の目処(めど)は、103.75円(99.02円・118.66円の上昇幅の76.4%押し)となる。

米中貿易・通貨安戦争に関しては、トランプ米政権の対中制裁関税第4弾(3000億ドル・10%)が、9月1日(約1400億ドル)と12月15日(約1600億ドル)に発動され、税率は10%から15%へ引き上げられることになり、第1・2・3弾の2500億ドルに関しても、10月1日から25%から30%に引き上げられることになった。中国も報復関税措置として、750億ドル(5-10%)が、9月1日と12月15日に発動することで、米中貿易・通貨安戦争が激化する可能性が高まりつつある。

トランプ米大統領が「米国には強いドルと非常に弱いFEDがある」と不満を表明し、先週の英フィナンシャルタイムズ紙が報じた、ドル売り・中国人民元買い介入の可能性への警戒感が高まりつつある。

極東の地政学リスクに関しては、香港のデモに対して、トランプ米大統領が「米国・香港政策法」を盾に介入を示唆し、中国側は「反テロリズム法」による武力鎮圧を示唆していること、韓国の軍事情報包括保護協定(GSOMIA)破棄を受けた朝鮮半島の地政学リスクへの懸念の高まりが、円買い要因となっている。

パウエルFRB議長は、ジャクソンホール会議での講演で、足元の景気拡大を維持すべく「適切に対応」として再表明した。市場が織り込んでいる9月の米連邦公開市場委員会(FOMC)での追加利下げ、年内の0.50-0.75%利下げ期待を追認したことも、ドル円の上値を抑える要因となる。23日時点の9月FOMCでの利下げ確率は、0.25%が78.9%、0.50%が21.1%となっている。

第7回日米閣僚級通商協議と日米首脳会談では、米国産牛肉・豚肉などの農産物への関税引き下げは環太平洋連携協定(TPP)水準(38.5%⇒9%)に抑えられ、トランプ米大統領が求めていた撤廃は回避され、日本が求めていた自動車関税(2.5%)の撤廃は見送られたことで、日米貿易不均衡がやや正される可能性が高まった。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

○14:00 ◇ 6月景気動向指数改定値

<海外>

○07:45 ◎ 7月ニュージーランド (NZ) 貿易収支 (予想: 4.02 億 NZ ドルの赤字)

○17:00 ◎ 8月独 Ifo 企業景況感指数 (予想: 95.2)

○21:30 ◎ 7月米耐久財受注額 (予想: 前月比 1.0% / 輸送用機器を除く前月比 0.2%) ○23:00 ◎ ブラ
ード米セントルイス連銀総裁、あいさつ

○英国 (サマーバンクホリデー)、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

【前日までの要人発言】

23日 09:55 茂木経済財政相

「日米閣僚級貿易協議は明日も継続する」

24日 04:28

「日米通商交渉で品目を含めて通商交渉の方向性で合意した」

23日 11:02 カプラン米ダラス連銀総裁

「9月のFOMC会合で金利を引き下げる可能性がある」
「貿易の不確実性と世界的な成長のリスクが利下げを正当化する可能性」

23日 13:57 エルドアン・トルコ大統領

「トルコは、地中海東部での炭化水素探査活動を継続する」

23日 15:15 韓国安保当局者

「日本は対話申し出を拒否しただけではなく無視した」
「日韓軍事情報協定の破棄、米国との緊密な協議の後に決定」

23日 20:33 英外交筋

「英国の新首相はG7サミットに影を投げかけるつもりはない」
「イラン核合意に対して新内閣の姿勢は以前と変わらない」

23日 20:37 独経済省報道官

「現時点では、景気後退に陥っていない」
「支援策で成長を確実にすべき」

23日 20:46 ブラード米セントルイス連銀総裁

「低い金利はインフレ目標達成への助け」
「労働市場は好調であり、小売売上高も順調」
「逆イールドカーブを避けるためにもFRBは利下げすべき」
「2012年からインフレ目標を下回っている」
「貿易戦争は米国内よりも国外への影響が大きいだろう」

23日 21:12 中国

「750億ドル相当の米国からの輸入品に5-10%の追加関税を課す」

23日 21:36 ナバロ米大統領補佐官(通商担当)

「彼らが閉ざされたドアの向こう側にいたとしても、中国

との交渉を継続」

「中国との貿易戦争は、米経済成長の減速を意味しない」

23日 22:05 トランプ米大統領

「今こそFRBが本領を発揮する時だ」
「FRBはまた何もなかった」
「彼らは私が何をしているか知ろうとも聞こうともしないで、話すことが信じられない」
「米国は非常に強いドルと非常に弱いFRBが存在する」
「中国の新たな関税に本日午後対応する」

24日 06:10

「何年にも渡って中国(他の多くの国も)は貿易面で米国から利益を得てきている」
「我々はこの不公平な貿易関係を公平にしなければならぬ」
「10月1日から、中国からの2500億ドルの製品に現在25%の関税を30%にする」
「更に中国からの3000億ドルの製品に9月1日から、10%の関税を15%にする」

23日 22:11 メスター米クリーブランド連銀総裁

「不確実性が続けば政策の再調整が必要になるかもしれない」

23日 22:47 ハーカー米フィラデルフィア連銀総裁

「現時点で行動が必要とは思わない」
「米労働市場は引き続き強い」

23日 23:02 パウエルFRB議長

「経済は望ましい状況だが、リスクが迫っている」
「景気拡大を維持するために、適切に行動する」
「米雇用市場は歴史的な強い状況」
「インフレは2%目標に近づいているようだ」

24日 00:18 ジョンソン英首相

「早期ブレグジット合意への期待が下がっている」

24日 04:03 カーニー・イングランド銀行(BOE)総裁

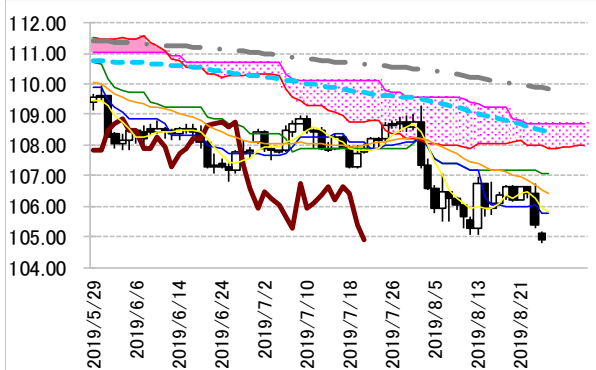
「英経済は潜在成長率をわずかに下回っている」
「第3四半期は経済の停滞を示唆」
「合意なき離脱は緩和政策の可能性を高める」

24日 05:19 クラリダFRB副議長

「リセッションに入るリスクが高まっているとは思えない」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

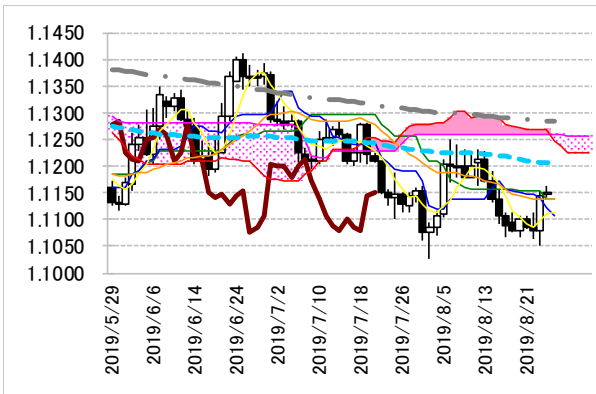


<ドル円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯中。週明けの窓（23日安値105.26円・26日現時点までの高値105.17円）が、下落トレンド途上のランナウェイ・ギャップならば、100円割れの可能性を示唆。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上回った場合は手仕舞い。

レジスタンス1	105.62(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	105.39
サポート1	103.75(99.02円・118.66円上昇幅の76.4%押し)
サポート2	103.12(8/12-13の上昇幅の下方倍返し)

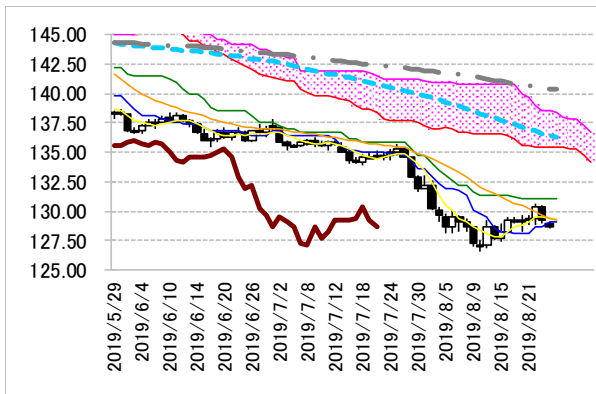


<ユーロドル＝23日安値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯中。底値圏から抱き線で反発、転換線を上回っていることで戻りの可能性を示唆されている。

本日は、転換線1.1122ドルを念頭に置き、23日安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.1260(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	1.1144
サポート1	1.1052(8/23安値)

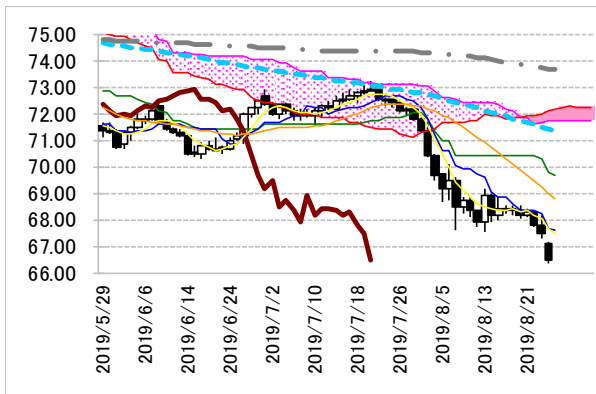


<ポンド円＝22日高値を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目均衡表・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。22日の陽線に対して孕み線で反落しており、下落トレンドが再開する可能性を示唆されている。

本日は、22日高値を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同水準を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	130.70(8/22高値)
前日終値	129.31
サポート1	127.48(8/15安値)



<NZドル円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。13日の抱き線での反発を14日の孕み線で打ち消した後、下落トレンド再開の可能性を示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	67.64(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	67.28
サポート1	65.89(8/9-13の上昇幅の下方2倍返し)

